

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり4.50人と、増加しています。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり3.09人の報告がありました。全国的に増加傾向であり、注意が必要です。手洗いの励行、咳エチケット、換気など、基本的な感染予防対策を心がけましょう。

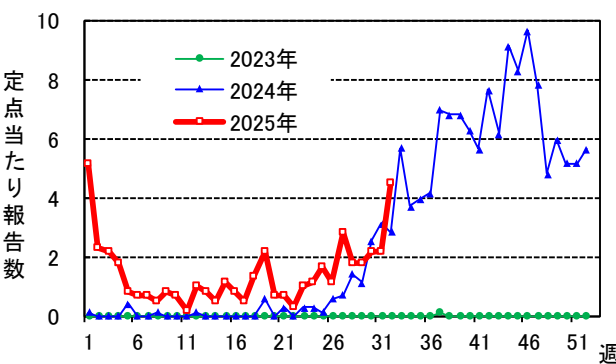
3 伝染性紅斑

定点当たり3.91人の報告があり、多い状況が続いています。

4 RSウイルス感染症

定点当たり0.77人と、増加傾向です。

マイコプラズマ肺炎の流行状況(広島市)



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1889	53.97		⇒	小児科	突発性発しん	3	0.14	0.35	
	インフルエンザ	2	0.06	0.14			ヘルパンギーナ	28	1.27	0.58	⇒
	新型コロナ(COVID-19)	108	3.09		⇒		流行性耳下腺炎	-	-	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	17	0.77	1.74	↑	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	咽頭結膜熱	8	0.36	0.20			流行性角結膜炎	7	0.88	0.25	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	2.45	0.77	⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	96	4.36	2.16	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	水痘	5	0.23	0.05			マイコプラズマ肺炎	27	4.50	0.57	↑
	手足口病	10	0.45	3.28	⇒		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	86	3.91	-	⇒		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減

増減

微増減

横ばい

↑

⇒

⇒

⇒

前週と比較しておおむね1:2以上の増減
前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	77	80歳代、80歳代・市外
4	レジオネラ症	2	23	50歳代、70歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	9	80歳代・2人
5	後天性免疫不全症候群	1	4	30歳代・感染者・推定感染地域: 国外
5	水痘(入院例に限る)	1	3	70歳代
5	梅毒	4	87	40歳代・2人、50歳代・2人
5	百日咳	37	756	10歳未満・11人、10歳代・17人、20歳代・2人、30歳代・1人、40歳代・3人、50歳代・1人、60歳代・1人、70歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	(COVID-19) 新型コロナウイルス	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎
報告数	第28週	1,965	1	39	2	5	42	151	1	22	97	3	60	3	-	10	-	-	11	-	-
	第29週	1,899	2	48	3	11	69	129	8	22	71	6	53	-	-	10	-	-	11	-	-
	第30週	1,754	1	74	6	7	51	118	5	22	67	10	38	3	-	7	-	-	13	-	-
	第31週	1,916	-	110	6	11	50	115	5	17	88	7	25	-	-	3	-	-	13	-	-
定点当たり	第32週	1,889	2	108	17	8	54	96	5	10	86	3	28	-	-	7	-	-	27	-	-
	第28週	56.14	0.03	1.11	0.09	0.23	1.91	6.86	0.05	1.00	4.41	0.14	2.73	0.14	-	1.25	-	-	1.83	-	-
	第29週	54.26	0.06	1.37	0.14	0.50	3.14	5.86	0.36	1.00	3.23	0.27	2.41	-	-	1.25	-	-	1.83	-	-
	第30週	50.11	0.03	2.11	0.27	0.32	2.32	5.36	0.23	1.00	3.05	0.45	1.73	0.14	-	0.88	-	-	2.17	-	-
全国	第31週	54.74	-	3.14	0.27	0.50	2.27	5.23	0.23	0.77	4.00	0.32	1.14	-	-	0.38	-	-	2.17	-	-
	第32週	53.97	0.06	3.09	0.77	0.36	2.45	4.36	0.23	0.45	3.91	0.14	1.27	-	-	0.88	-	-	4.50	-	-
	第30週	48.17	0.32	4.12	0.53	0.45	1.60	4.19	0.34	0.59	1.88	0.33	1.64	0.05	0.01	0.83	0.01	0.07	0.83	0.01	0.02
	第31週	52.82	0.30	5.53	0.69	0.44	1.79	4.77	0.31	0.63	1.95	0.34	1.92	0.04	0.01	0.90	0.02	0.09	0.99	-	-

■ 病原体検出状況(ARIサーベイランス)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

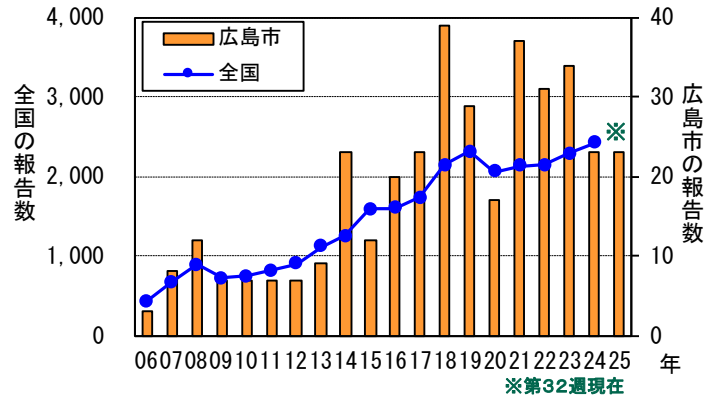
検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	A(H1N1)2009型 インフルエンザウイルス	A(H3)型 インフルエンザウイルス	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	エンテロウイルス	ライノウイルス	アデノウイルス
第27週	19	13					2	1			1		4	2	3		1
第28週	11	4					1						2	1	2		
第29週	18	12					2		1				1	1	8		1
第30週	16	10					2	1	1					4	5		2
第31週	19	9					2	1	1						6		1

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む(検査:広島市衛生研究所)

詳しくはホームページで [広島市 病原体](#)

【参考】広島市におけるレジオネラ症の発生動向について

レジオネラ症の年間報告数の推移



【参考】レジオネラ症Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html



今年の累計報告数は第32週で23件となり、昨年同時期の14件を大きく上回っています。
レジオネラ症は、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)の吸入などによって感染する細菌感染症で、夏から秋に多い傾向です。
病型の一つであるレジオネラ肺炎は、2~10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難などの症状が出現します。高齢者や新生児、免疫機能が低下している人は、肺炎を起こす可能性が高く、特に注意が必要です。
国内では、循環式浴槽、加湿器、冷却塔、入浴施設などによる感染事例の報告がされており、これらの維持管理を適切に行うことが大切です。また、土ぼこりを吸い込んで感染することもあるため、必要に応じてマスクを着用しましょう。



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp